「日々の理科」（第 4440 号） 2026,10,-6

「秋の北極圏旅行記（20）」

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所

田中　千尋　Chihiro Tanaka



オーロラとの記念写真は撮影が難しいです。これは失敗作で、一番右の私が「落武者」になっています。



オーロラには強弱があります。しばらく暗い状態が続いたと思えば、急に明るくなることもあるのです。



このようなバンド・オーロラ（カーテン状のオーロラ）も本当に突然現れるので、一晩中目が離せません。



バンドラヘム（コテージ）の目の前は、線路を挟んで湖なので、水鳥の観察にも適しています。この日は水鳥の群れがスイスイ泳いでいました。



これは「ウミアサイ」という水鳥です。友人の鳥類学者が同定してくれました。ウミアイサ（海秋沙／学名 *Mergus serrator*／Småskrake）は、カモ科アイサ属の水鳥で、細長い赤いくちばしと、後頭部のぼさぼさした冠羽が特徴です。魚を主な餌とし、水面を泳ぎながら時々頭を水中に入れて獲物を探し、見つけると潜水して追いかけます。写真のような褐色の頭をした個体は、メスまたは若鳥のようです。

スウェーデン北部のポルユス周辺では夏鳥で、春に渡来して湖沼や河川で繁殖します。秋になり湖が凍り始める前には南へ渡り、スウェーデン南部やバルト海、デンマーク、北海沿岸などの凍結しにくい水域で冬を

過ごします。9月中旬のポルユスで見られるウミアイサは、長い南への旅を間近に控えた姿なのかもしれません。



しばらく観察していると、集団でもぐる様子が見られました。たぶん、渡りの前の「栄養補給」をしているのでしょう。



同行友人のお嬢さんは、この線路端の湖岸がお気に入りだったようです。何と「一回だけ列車が通った」と報告してくれました。



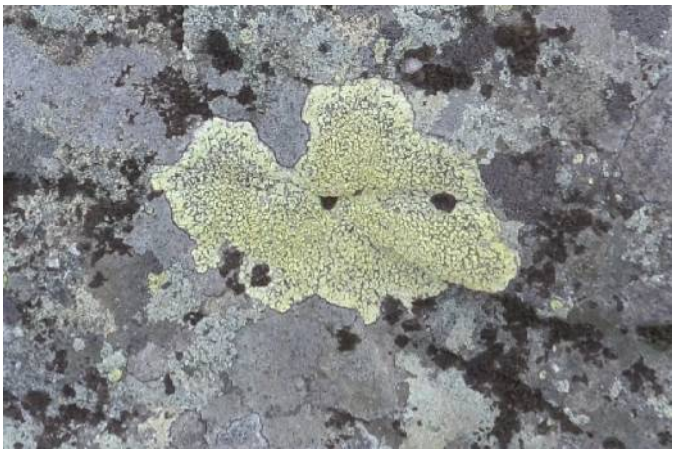
この駅に列車が通るのは、6月から8月上旬だけなので、まさか！とは思いましたが、あとで自動撮影カメラの画像を確認すると、確かにインランズバーナン（内陸鉄道）の車両が写っていました。これは、鉄道会社の研修の為の、臨時列車だったのだそうです。



イェリバーレ郊外にあるドゥンドレット山に登りました。登ったといってもほとんど山頂まで自動車道があり、非常に楽に登れます。



山頂付近は森林限界を突破していて、実に広漠たる景観です。遮るものが何もないので、ラップランドの大地を一望できます。



ドゥンドレット山は標高こそ高くはないのですが、高緯度なので、植生的には日本の高山帯と同じです。岩表面には「チズゴケ」という地衣類が多かったです。